

## 第5章 次世代育成支援特定14事業に係る目標事業量

## 次世代育成支援対策推進法による特定14事業に係る目標事業量

次世代育成支援対策推進法（平成15年法律第20号）第8条第1項の規定に基づき、市町村行動計画を策定するものです。

行動計画の目標設定に当たっては、利用者等のニーズを踏まえて、可能な限り定量的に示し、具体的な目標を設定することが必要となっています。

そこで、第5章においては、特定14事業に係るニーズ量の数値を示し、目標達成への年次計画と事業量を明確に記載します。

### 特定14事業とは...

施策領域	目標指標
1 保育園通常保育事業	定員数
2 放課後児童健全育成事業	定員数・設置箇所数
3 病後児保育（施設型）	定員数・設置箇所数
4 病後児保育（派遣型）	年間延べ派遣回数
5 一時保育事業	定員数・設置箇所数
6 延長保育事業	定員数・設置箇所数
7 休日保育事業	定員数・設置箇所数
8 子どものショートステイ事業	定員数・設置箇所数
9 子どものトワイライトステイ事業	定員数・設置箇所数
10 地域子育て支援センター事業（子育てひろば）	設置箇所数
11 つどいのひろば事業（子育てひろばC型）	設置箇所数
12 特定保育事業	定員数・設置箇所数
13 夜間保育事業	定員数・設置箇所数
14 ファミリー・サポート・センター事業	設置箇所数

#### 推計ニーズ量の把握のための調査

住民基本台帳から抽出の就学前児童保護者	1,800世帯
保育所・幼稚園通園児保護者	1,300世帯
住民基本台帳から抽出の小学1～3年生の保護者	900世帯
学童保育所利用保護者	500世帯

\* 14項目について、事業内容の説明をし今後の利用希望を質問する。

\* 更に、いくつかの条件をクロスして絞り込んだ数量を人口推計値に合わせて算出し「推計ニーズ量」とする。

## 1. 通常保育事業

### (1) 実績(2004.1.1)

保育所入所受け入れ数：4,080人  
 認証保育所 + 保育室 + 家庭福祉員：85人  
 (待機児童数：755人)

年 齢	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	計
2004年実績	348人	535人	667人	798人	857人	875人	4,080人

### (2) ニーズ量の推計(2004年1月実施)

「保育園を今後利用したい」と回答した人から次の条件に当てはまる量及び、過去5年間の要保育率の上昇率を考慮し、ニーズ量を推計した。

就学前児童一般のうち、保育園通常保育事業を今後利用したい  
 平日の昼間、認可保育園を利用していない  
 現在困っていること「祖父母など、身近な協力者がいない」をあげている

#### 推計ニーズ量

年 齢	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	計
ニーズ量	605人	826人	957人	995人	1,003人	977人	5,363人

#### 通常保育事業の目標事業量

年 度	2005	2006	2007	2008	2009
定 員	4,116人	4,259人	4,474人	4,474人	4,474人

\* 定員の弾力化(定員を超えての受入枠拡大)10%の実施 約400人

#### 他の保育サービスの目標事業量

##### 認証保育所

年 度	2005	2006	2007	2008	2009
定 員	162人	267人	267人	267人	267人

##### 保育室

年 度	2005	2006	2007	2008	2009
定 員	35人	35人	35人	35人	35人

##### 家庭福祉員

年 度	2005	2006	2007	2008	2009
定 員	9人	49人	49人	49人	49人

\* 幼稚園の預かり保育拡充による待機児解消 約200人

## 2. 放課後児童健全育成事業（学童保育クラブ）

### （1）実績（2004.1.1）

年	施設数	定員	在籍数
2004年	32箇所	1395人	1842人

### （2）ニーズ量の推計（2004年1月実施）

条件 当てはまる量  
 学童保育クラブを今後利用したい  
 学童保育クラブの未利用者  
 無職の場合、母親が求職活動中または具体的に働く予定がある  
 小学1～3年生保護者

年	2005	2006	2007	2008	2009
ニーズ量(人)	231人	244人	250人	256人	258人

### 学童保育クラブの目標事業量

年度	2005	2006	2007	2008	2009
実施箇所数	35箇所	36箇所	37箇所	39箇所	40箇所

\* 1小学校区1学童保育クラブを開設する

### 3. 病後児保育事業（施設型）

#### （1）実績

年 度	施設数	登録児童数	利用児童数(延べ)
2001	2箇所	179人	484人
2002	3箇所	487人	428人
2003	3箇所	638人	881人

#### （2）ニーズ量の推計（2004年1月実施）

条件 当てはまる量

就学前保護者のうち病後児保育事業を今後利用したいと思う

ひとり親世帯で子どもが病気の時に親が面倒を見ている

または、共働き世帯で子どもが病気のときに親が面倒を見ている

または、無職で子どもが病気のときに親以外の方が面倒を見ている

ひとり親家庭または共働き家庭で、現在困っていること・悩んでいることとして「職場で希望する休暇が取れない」「祖母・祖父など身近な協力者がいない」をあげている

年	2005	2006	2007	2008	2009
ニーズ量	714人	723人	697人	665人	631人

#### 病後児保育事業の目標事業量

年 度	2005	2006	2007	2008	2009
定 員	16人	16人	16人	16人	16人
施設数	4箇所	4箇所	4箇所	4箇所	4箇所

\* 2004年現在、3施設・定員12人を実施施設1箇所の増設を図り、定員を16人とする

\* 登録児童数・利用児童数（延べ人数）の推移から実施施設を増設

\* 地域の偏りがないように、鶴川地域・忠生地域以外とする

### 4. 病後児保育事業（訪問型）

病後児保育事業（施設型）の利用実績の推移を見ながら、今後の検討課題とする

## 5. 一時保育事業

### (1) 実績

年 度	施設数	定 員	登録児童数	利用児童数
2001	12 箇所	120 人	5125 人	2891 人 (3年間の平均人数)
2002	15 箇所	150 人		
2003	19 箇所	190 人		

\* 各実施園ではキャンセル待ちを抱えている状況

\* 利用者動向は、0歳～2歳児の利用・非定型就労のための利用が8割を超えている

### (2) ニーズ量の推計(2004年1月実施)

#### 条件

就学前保護者のうち、保育園の一時保育を今後利用したいと思う

平日の昼間の認可保育園未利用者

現在困っていること・悩んでいることとして「祖母・祖父など身近な協力者がいない」をあげている

年	2005	2006	2007	2008	2009
ニーズ(人)	6,113 人	6,102 人	5,721 人	5,386 人	5,090 人

#### 一時保育事業の目標事業量

年 度	2005	2006	2007	2008	2009
定 員	210 人	230 人	230 人	230 人	230 人
実施箇所数	21 箇所	23 箇所	23 箇所	23 箇所	23 箇所

\* 登録児童数の約6割が利用していることから、ニーズ量の6割の利用を見込み実施園を増やす

\* 現在19箇所で開催している。

\* 今後は、創設保育園で一時保育スペースを確保して実施する

## 6. 延長保育事業

(1) 実績(2003.1.1.)

2003年度	施設数	利用人数
1時間延長実施園	34園	784人
2時間延長実施園	9園	73人
3～4時間延長実施園	1園	20人

(2) ニーズ調査(2004年1月実施)

条件 当てはまる量

保育園の延長保育事業を今後利用したいと思う

出張や残業がある

現在困っていること・悩んでいることとして「祖母・祖父など身近な協力者がいない」「安心して子どもを預けられるところがない」をあげている

年	2005	2006	2007	2008	2009
延長希望者	1,264人	1,266人	1,220人	1,164人	1,104人
1時間延長	1,130人	1,131人	1,090人	1,040人	987人
2時間延長	104人	105人	101人	97人	92人
3時間以上	30人	30人	27人	26人	25人

### 延長保育事業の目標事業量

	1時間延長 実施園	2時間延長 実施園	3-4時間延長 実施園
2005年度	34園	11園	1園
2006年度	34園	13園	1園
2007年度	34園	14園	1園
2008年度	34園	14園	1園
2009年度	34園	14園	1園

\* 1時間延長保育については、全認可保育園で実施しており充足している

\* 2時間以上の延長保育については、実績の推移を見ながら拡充する

## 7. 休日保育事業

### (1) 実績

年 度	施設数	登録児童数	利用児童数	1日平均利用人数
2003年度	1箇所	75人	(延べ)354人	5人

### (2) ニーズ量の推計(2004年1月実施)

条件 当てはまる量

就学前児童一般のうち、保育園の休日保育事業を今後利用したいと思う  
休日出勤がある(両親ともに)  
現在困っていること・悩み「身近な協力者がいない」

年	2005	2006	2007	2008	2009
ニーズ量	636人	646人	623人	594人	563人

#### 休日保育事業の目標事業量

年 度	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年
定 員	20人	20人	20人	20人	20人
施設数	1園	1園	1園	1園	1園

\*実績と推定ニーズ量との差が見られる

\*定員の余裕もあるため、今後の利用実績の推移を見ながら、拡充を検討する

## 8. 子どものショートステイ事業

### (1) 実績

年 度	施設数	利用世帯数(児童数)	延べ利用日数
2003年度	1箇所	55世帯(72人)	314日

### (2) ニーズ量の推計(2004年1月実施)

条件 当てはまる量

子どものショートステイを今後利用したい  
両親の実家がない

年	2005	2006	2007	2008	2009
ニーズ量	153人	155人	149人	143人	135人

### 子どものショートステイ事業の目標事業量

年 度	2005	2006	2007	2008	2009
定 員	6 人	6 人	6 人	6 人	6 人
施設数	1 箇所				

\* 推計ニーズ量と実績に開きがある

\* 緊急の場合の対応策（安心感）と現実の事態発生との差と見られるため、今後の利用実績の推移を見ながら拡充を検討する

## 9. 子どものトワイライトステイ事業

### (1) 実績

年 度	施設数	利用世帯数（児童数）	延べ利用日数
2003年度	1 箇所	24 世帯（46 人）	439 日

### (2) ニーズ量の推計（2004年1月実施）

条件 に当てはまる量

トワイライトステイを今後利用したい

勤務形態が9時から17時中心の勤務外

または、早出・残業があり、平日の夜間に家族・親族などが主に見ている

現在の困っていること・悩んでいることとして「身近な相談者がいない」をあげている

年	2005	2006	2007	2008	2009
ニーズ量	127 人	129 人	125 人	119 人	113 人

### 子どものトワイライトステイ事業の目標事業量

年 度	2005	2006	2007	2008	2009
定 員	6 人	6 人	6 人	6 人	6 人
施設数	1 箇所				

\* 推計ニーズ量と実績に開きがある

\* 緊急の場合の対応策（安心感）と現実の事態発生との差と見られるため、今後の利用実績の推移を見ながら拡充を検討する

## 10. 地域子育てセンター事業（保育園の子育てひろば事業）

### （1）実績

年 度	延べ利用者数
2001	22,567 人
2002	61,594 人
2003	90,133 人

\* 現在 21 園で実施

### （2）ニーズ量の推計（2004 年 1 月実施）

条件 に当てはまる量

就学前保護者一般のうち、保育園の子育てひろば事業を今後利用したいと思う

年	2005	2006	2007	2008	2009
ニーズ量	10,188 人	10,281 人	9,911 人	9,458 人	8,966 人

#### 子育てひろば事業の目標事業量

年 度	2005	2006	2007	2008	2009
実施園数	22 園	23 園	25 園	25 園	25 園

\* 在宅子育て家庭のニーズが大きいため、順次、実施園数を増やす

## 11. 集いの広場事業

### （1）実績 未実施

### （2）ニーズ量の推計（2004 年 1 月実施）

年	2005	2006	2007	2008	2009
ニーズ量	6,228 人	6,329 人	6,101 人	6,822 人	5,519 人

#### 集いの広場事業の目標事業量

年 度	2005	2006	2007	2008	2009
実施園数	1 箇所				

\* 在宅子育て家庭の新たなメニューとして、空き店舗を活用して実施

## 12. 特定保育事業（未実施）

### 特定保育事業の目標事業量

一時保育の利用状況の推移・待機児童の解消の推移等を見ながら、事業実施を検討する

## 13. 夜間保育事業（未実施）

### 夜間保育事業の目標事業量

今後の就労状況の変化や4時間延長保育の状況等を見ながら、事業実施を検討する

## 14. ファミリー・サポート・センター

### （1）実績

年 度	依頼会員	援助会員	両方会員	利用件数
2003年度	1,483人	523人	87人	12,107人

### （2）ニーズ量の推計（2004年1月実施）

条件 に当てはまる量

今後ファミリー・サポート・センターを利用したい

現在困っていること・悩んでいることとして「身近な協力者がいない」をあげている

年	2005	2006	2007	2008	2009
ニーズ量	1,322人	1,343人	1,295人	1,236人	1,171人

### ファミリー・サポート・センター事業の目標事業量

ファミリー・サポート・センターの事業実績の推移を見ながら、センターの拡充を考える

